

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	10	高知農業	高等学校	課程	全
------	----	------	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	企業や関係機関との連携を通して、高い専門知識や技術を習得したスペシャリストを養成し、次世代の産業の担い手を育成する。
	農業分野のデジタル化を推進し、最先端技術の学びや地域での体験的な学習活動を通して、探究心や豊かな心を育み、次世代農業の担い手を育成する。		
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○農業関連の各学科の専門分野に興味・関心があり、実験・実習などを継続して意欲的に実践できる人を求めています。 ○将来、各学科に関する分野の後継及び関連産業に従事し、地域を良くしようとする人を求めています。 ○体を動かし、汗をかき、学ぼうとする向上心のある人を求めています。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○農業総合科 園芸や作物に関する栽培から流通、経営までを総合的に学ぶことができる教育課程を編成します。 ○畜産総合科 家畜に関する知識・飼養管理技術、本県独自の地場産品の開発を学ぶことができる教育課程を編成します。 ○森林総合科 森林の管理・保育や木材加工、特用林産物の利用などを総合的に学ぶことができる教育課程を編成します。 ○環境土木科 自然の保全や生活環境の整備・改善に関する知識技術などを総合的に学ぶことができる教育課程を編成します。 ○食品ビジネス 農産物の加工から流通、貯蔵等の他、地場産品の開発などを学ぶことができる教育課程を編成します。 ○生活総合科 食と健康の大切さや生活文化等を体系的・総合的に学ぶことができる教育課程を編成します。	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○農業関連の各学科の専門分野に興味・関心があり、実験・実習などを継続して意欲的に実践できる人を求めています。 ○将来、各学科に関する分野の後継及び関連産業に従事し、地域を良くしようとする人を求めています。 ○体を動かし、汗をかき、学ぼうとする向上心のある人を求めています。
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○主体的に学習に取り組む態度の育成を目指して、基礎的・基本的な知識及び技能に加え、思考力・判断力・表現力等を育成します。 ○社会的・職業的に必要な力の育成を目指して、コミュニケーション能力及びキャリアデザイン能力を育成します。		【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○農業総合科 園芸や作物に関する栽培から流通、経営までを総合的に学ぶことができる教育課程を編成します。 ○畜産総合科 家畜に関する知識・飼養管理技術、本県独自の地場産品の開発を学ぶことができる教育課程を編成します。 ○森林総合科 森林の管理・保育や木材加工、特用林産物の利用などを総合的に学ぶことができる教育課程を編成します。 ○環境土木科 自然の保全や生活環境の整備・改善に関する知識技術などを総合的に学ぶことができる教育課程を編成します。 ○食品ビジネス 農産物の加工から流通、貯蔵等の他、地場産品の開発などを学ぶことができる教育課程を編成します。 ○生活総合科 食と健康の大切さや生活文化等を体系的・総合的に学ぶことができる教育課程を編成します。

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 B 】	C層以上の生徒は1年、2年ともに減少しており、目標には至らなかったものの、その内訳においては、1年、2年ともにA層、B層が増加し、C層が減少していることから、上位層の引き上げができており、一定の努力が認められる。次年度は、クロムブックの持ち帰りを推進し、家庭学習時間の増加を図るとともに、D層の底上げとC層以上の割合を増加させる取組の充実を期待する。
【社会性の育成】 評価 【 A 】	社会性の育成においては、農業教育の得意とするところであり、校内での課題研究や総合実習等のベース教育がしっかりとされているからこそ校外への発信につながっているものと評価できる。学校行事等の充実を図るとともに、地域や外部専門機関とかかわりながら、豊かな人間性や道徳性、社会性を育む教育に努めていただきたい。
【チーム学校】 評価 【 B 】	不祥事防止の取組や働き方改革の取組が十分ではなかったものの、学校振興については各目標を大きく上回る成果がみられ、十分評価できる。さらなる学校の魅力化、特色化に向けての取組においては、ハード面(施設設備)の整備が急務であり、課題でもある。法令遵守はもちろんのこと、安心・安全な学校づくりに全教職員で取り組んでいただきたい。

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】		
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	○C層以上の生徒の増加 ・1年: R7.4→R7.10(9.9ポイント増) ・2年: R6.4→R7.10(9.3ポイント増) ○授業外学習時間の増加 ・1年: R6.11→R7.11(10.8ポイント増) ・2年: R6.11→R7.11(22.1ポイント増) ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・1年: R6.11→R7.11(4.4ポイント増) ・2年: R6.11→R7.11(4.2ポイント増)	・クロムブックの持ち帰りを推進することで授業と授業外学習のシームレス化を図る。 ・「すらら」の活用に向けて具体的な実施時間、内容等を教職員に呼びかけていく。 ・学習支援員事業を国・数・英で実施し、共通テストの対策講座等の高度な内容も盛り込んでいく。	B	○C層以上の生徒の増加 ・1年: R7.4→R7.4(増減なし) ・2年: R6.4→R7.4(5.3ポイント減) ○授業外学習時間の増加 ・1年: R6.11→R7.4(16.6ポイント増) ・2年: R6.11→R7.4(16.5ポイント増) ○将来のための勉強をしている生徒の増加 ・1年: R6.11→R7.4(0.9ポイント増) ・2年: R6.11→R7.4(2.1ポイント増)	・第2回の基礎力診断テストに向けて、すらの活用を推進する。 ・学習支援員事業を活用し、数学、英語で共通テストの対策講座等の高度な内容も盛り込んでいく。 ・クロムブックの持ち帰りを推進し授業と授業外学習のシームレス化を図ることで「授業以外は学習しない」割合を減少させる。	B	・授業時間数を確保し、質の高い授業を提供することで基礎学力の定着を図る。 ・クロムブックの持ち帰りを推進し、家庭学習時間の増加を図る。 ・学習支援員事業を国・数・英で継続実施し、共通テスト対策等の高度な内容にも対応できる体制を整える。	
	社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○学校行事(高農フェスタ来場者数1,300名以上、ふれあい市来場者数毎回150名以上、) ○インターンシップ参加率100%	・体育祭、高農フェスタ、ふれあい市等で生徒主体の取組を積極的に行う。 ・企業見学、地域との連携の他にボランティア活動にも積極的に参加する。 ・県立農業大学校、森林大学校、森林管理局、畜産試験場等の見学、体験 ・地域の清掃活動等に参加する。	A	○第1回ふれあい市来場者(231)名 ○インターンシップ参加率(100%)	・11月の高農フェスタ(文化祭)で高農の魅力発信し、併せて生徒が主体的に取り組めるようモザイク壁画を中心に4回の団結を促す。 ・課題研究に地元農家や食品製造会社と連携した商品開発を進めていく。	A	○第1回ふれあい市来場者(231)名 第2回ふれあい市来場者(227)名 第3回ふれあい市来場者(137)名 第4回ふれあい市来場者(149)名 高農フェスタ来場者(約2,700)名 ○インターンシップ参加率(100%)	・校内外の農産物販売や地域ボランティアにも積極的に参加するなど、課題研究や実習等での学びを活かして発信できる力を育成する。 ・外部講師招へい事業を継続して活用する。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○県オリジナルアンケート「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答65%以上 ○地産地消ごめん軽トラ市・産業教育PRイベント・県立農業大学校収穫祭に参加する。	・地域の小学校や保育園との交流授業を実施する。 ・年4回のふれあい市を地域の広報誌やホームページでPRする。 ・室戸市と連携したシキミの商品化に取り組む。 ・高知大学や地元企業と連携しながらドローンの活用を学校全体で取り組む。	A	○県オリジナルアンケート「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答1年(65.8%)、2年(67.6%) ○ごめん軽トラ市6/18参加。	・年4回のふれあい市を地域の広報誌やホームページ等でPRする。 ・地域の小学校10/16と交流授業を実施する。 ・Nexco西日本南国SAと新メニュー化に取り組む。	B	○県オリジナルアンケート「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」の肯定的回答 1年R7.5(65.8%)→R7.11(53.5%) 2年R7.5(67.6%)→R7.11(67.6%) ○ごめん軽トラ市(2)回、農業教育フェア・県立農業大学校収穫祭参加。 南国SA新メニューに採択。	・地域の保幼小中連携を継続し、交流授業等を実施する。 ・外部団体等と連携し、商品開発等の取組に努める。 ・高知大学や地元企業と連携し、ドローンの活用で学校全体で取り組む。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を意図的に設定した回数、各教科学期に3回以上 ○課題研究等の成果物のうち、各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結びつけている成果物の割合80%	・6学科すべてで教科横断的な授業が実施できるように授業計画を行う。 ・DXハイスクール予算で導入された葉緑素計を用いて植物の生育状態を数値化し「見える化」していく。	A	○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を意図的に設定した回数、各教科1学期(3)回以上	・2学期の参観・公開授業週間に、教員全員がICTを活用し、授業を行う。 ・授業デザインプロジェクトで参観・公開授業を評価し、教員の授業力向上を目指す。	A	○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を意図的に設定した回数、各教科1学期(3)回以上 ○課題研究等の成果物のうち、各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結びつけている成果物の割合(100%) 1年生「農業と環境」でDX事業実施。	・授業デザインプロジェクトチームを中心に、教科横断的な授業が実施できるように参観授業、公開授業期間を活用する。 ・DXハイスクール事業の自走化に向けて、学校全体で取り組む。

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】		
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化・特色化 ○国際教育 ○部活動の活性化 ○日本学校農業クラブでの入賞者を増やす。 ○県外からの生徒募集	○フランスの農業高校との交流を継続し、姉妹校締結を目指す。 ○部活動の県大会優勝、全国大会入賞を目指して活性化を図る。 ○外部人材を活用し、部活動を活性化させる。 ○農業クラブ全国大会入賞者3名以上 ○県外生徒募集4名(2名×2科) ○寮の規則見直し(準備) ○学校運営協議会等の実施回数(年2回→年2回)	・シバンス農業高校との交流を継続し、Zoom等により共同研究を進める。併せて、国際交流クラブを立ち上げる。 ・外部人材を活用し、部活動を活性化させる。 ・農業クラブの全国大会での入賞を目指して全教員で高校版農業電子図書館を活用していく。 ・令和7年度から「地域みらい留学」制度を活用した生徒募集の全国展開を行う。 ・県外からの生徒募集のための説明会等を行う。	B	○運動部活動指導員(3)名 ○県外生徒募集の対面説明会(4)回、オンライン説明会(6)回 ○学校運営協議会の実施回数(1)回	・2月のシバンス農業高校生の交流来校に向けて、10月にZoom会議を実施する。 ・地域みらい留学を活用し、学校見学に来る中学生を予定している。	A	○シバンス農業高校とオンライン会議(2)回 ○全国大会出場部活動:陸上、相撲、ソフトボール、ラケット、アーチェリー、新聞野球(21世紀杯甲子園出場) ○農く全国大会優秀賞(1)名、優良校表彰 農林水産省表彰:畜産総合科加工班 ○県外生徒の学校施設見学:(4)組(7)名 ○学校運営協議会の実施回数(2)回	・シバンス農業高校との交流を継続し共同研究を進める。 ・部活動及び農くの全国大会入賞を目指し、活動の質の向上を図る。 ・こうち留学、地域みらい留学を活用した県外生徒募集の取組を推進する。
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○校内研修の実施回数(年1回→年3回)(sc・ssw等外部講師による研修の充実) ○不祥事防止の取組回数(年4回→年5回) ○全教職員に服務規律の周知(年3回→年3回)	・職員会議等で服務規律の確保について周知 ・グループワーク等で教員主体の研修を行い、教職員の倫理観を向上させる。 ・産業医による教員研修の実施 ・風通しのよい職場づくり研修の実施	C	○校内研修(2)回(スクールロイヤーによるハラスメント防止研修会6/24、性暴力防止研修会8/29) ○不祥事防止の取組(3)回 ○服務規律の周知(12)回	・人権教育主任、SCによる校内研修会を行い、職員の人権意識の向上や倫理観の向上等を図る。	C	○校内研修(2)回(スクールロイヤーによるハラスメント防止研修会6/24、性暴力防止研修会8/29) ○不祥事防止の取組(5)回 ○服務規律の周知(15)回	・不祥事防止に向けて、SC、SSW等外部専門家を活用し、取組を強化する。 ・校内研修会で職員の人権意識の向上や倫理観の向上等を図る。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○「すぐる」を活用することで業務軽減につなげる。 ○事務室と連携することで業務改善につなげる。	○長時間労働者数毎月10人以下 ○「すぐる」の保護者の登録を100%にする。 ○会計、書類の製本等を事務室と連携して行う。	・週に1回の定時帰りの日を設定 ・分掌・学年団に対して、適切な業務の分担や勤務時間の割り振りを細やかにし、業務量の見直しを図っていく。	C	○長時間労働者(月45時間超) 4月:(26)名、5月:(22)名、6月:(25)名 7月:(18)名、8月:(9)名、9月:(20)名 ○「すぐる」の保護者登録(94.7%)	・「すぐる」を活用し、学校からの連絡文書をスピーディに配信する。 ・保護者からの欠席連絡等を「すぐる」で受信し、教職員の業務軽減に繋げる。	C	○長時間労働者(月45時間超) 4月:(26)名 5月:(22)名 6月:(25)名 7月:(18)名 8月:(9)名 9月:(20)名 10月:(26)名 11月:(22)名 12月:(8)名 1月:(7)名 ○「すぐる」の保護者登録(94.7%)	・長時間労働者(月80時間超)数の減少を目指し、校内業務を精選し、細やかな分担を行う。 ・事務室と連携し、業務改善を図る。